研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-11C		20-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Does adequate physical activity attenuate the associations of alcohol and alcohol-related cancer mortality? A pooled study of 54 686 British adults

十分な身体活動はアルコール摂取量とアルコール関連がん死亡との関連性を弱めるか？54,686 人の英国人成人を対象としたプール研究

執筆者

Feng Y, Powell L, Vassallo AJ, Hamer M, Stamatakis E.

掲載誌

Int J Cancer. 2020 Nov 15;147(10):2754-2763. doi: 10.1002/ijc.33052.

キーワード	PMID
アルコール摂取量、アルコール関連がん、がん死亡率、身体活動	32406936

要　旨

目的：身体活動（PA）が、アルコール関連がん死亡のリスクに与える飲酒量の影響を軽減するかどうかは明らかになっていない。本研究では、PA がアルコール関連がん死亡リスクに対する飲酒量の影響を緩和するかどうか検討した。

方法：英国の 10 の人口ベースの調査（Health Surveys for England 1994, 1997, 1998, 1999, 2003, 2004, 2006, 2008 および Scottish Health Surveys 1998 and 2003）の 30 歳以上の参加者のデータ（n=54,686）を用いた。アルコール関連がんは口腔、咽頭、喉頭、食道、肝臓、結腸・直腸、胃、女性乳房、膵臓、肺とした。飲酒量と PA（過去 4 週間）は聞き取り調査した。飲酒量により対象者を非飲酒、過去飲酒、機会飲酒、適正飲酒（女性: <14、男性: <21）[単位/週] 飲酒、危険量飲酒（女性: 14-35、男性: 21-49）[単位/週]、有害量飲酒（女性: >35、男性: >49）[単位/週]の 6 群に分類した。コックス比例ハザードモデルにより、飲酒量とアルコール関連がん死亡リスクとの関連を検討し、さらに PA の推奨値の下限と上限（7.5 と 15MET 時/週）により層別解析を行った。共変量は、年齢、性別、BMI、喫煙歴、教育歴、心理的苦痛、社会的地位、長期の病気の有無、PA とした。

結果：飲酒量とアルコール関連がん死亡リスクとの間に強い関連を認め、非飲酒者と比較して、過去飲酒者（ハザード比 [HR] = 1.46、95%信頼区間 [CI] = [1.09,1.94]）、危険量（HR = 1.39、95%CI = [1.06,1.83]）および有害量（HR = 1.62、95%CI = [1.13,2.30]）飲酒者で死亡リスクが高かった。PA が 7.5MET 時/週以上の群では、飲酒とがん死亡リスクとの関連は大きく減弱した。

結論：PA は、過去飲酒者、大量飲酒者におけるアルコール関連がん死亡率の低下に有効である可能性が示唆された。十分な PA および飲酒をしないことがアルコール関連のがん予防に有効である。